

ヒラリー・クリントンの軍事法廷 2021年9月29日

9月24日に2020年アメリカ大統領選挙のアリゾナ州のマリコパ郡の再審査の結果が上院議会で発表されました。トランプ大統領の大逆転勝利でした。一般市民も議会に入場できる発表会でしたが、主要メディアは、実況報道せず、逆にバイデンが票を増やして勝利していたとの信じられないフェイクニュースを全世界に発信しました。【詳しいことは「デクラスは何時始まるのか③」で取り上げる予定です。】

米軍は 2020年11月3日の大統領選挙から 選挙の違法性に関する独自の調査活動を続けておりその調査活動が完了間近だそうです。完了次第 トランプ大統領が復帰するそうです。

10月上旬頃までにはトランプ大統領が復帰し、デクラスと大量逮捕が始まるのではないのでしょうか。

今回は、ヒラリー・クリントンの軍事法廷の様子を詳細に報告いたします。

ヒラリー・クリントンは 2021年3月2日に逮捕され 4月26日に絞首刑になりました。



4月8日に開催されるクリントン軍事法廷

By "Real Raw News" Michael Baxter 3/30/2021

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/03/48.html>

正確に4月8日、ヒラリー・クリントンは、アメリカとその国民に対して犯した罪に回答するため、軍事法廷にかけられることになる。

既報の通り、トランプ大統領の指揮下にある**米海軍特殊部隊**は、3月2日、クリントン氏のニューヨーク州チャパクワの邸宅を急襲してクリントン氏を拘束し、元ファーストレディと無数の残虐行為とを結びつけるノートパソコンを押収した。彼女は3月5日からグアンタナモ湾収容所のキャンプデルタで軍の監視下に置かれている。

あと1週間余りで、この極悪非道で下劣な生き物は、ドナルド・J・トランプとその諮問委員会が厳選した6人の米軍将校で構成される軍事法廷の前に立つことになる。

裁判官と陪審員を兼任する将校は、0-3(大尉)から0-9(中将)までの幅広い階級をカバーしており、米軍の全部門から選ばれていると、手続きに詳しいトランプ氏の関係者がRRNに語った。

市民権を剥奪されたクリントン氏は、もはや米国憲法やジュネーブ条約の保護を受けることはできない。彼女は抑留者、つまり敵の戦闘員であり、何の権利もなく、黙秘権さえもない。軍事法廷では、沈黙は有罪と同義である。

「クリントン氏は、自分のために話してくれる弁護人が必要かどうか尋ねられたが、この気の狂った人は自分で弁護すると言った。彼女は軍事法廷という考えを狂気の沙汰だと断じ、自分の仲間がどうやって彼女を解放するかをべらべらしゃべっている。彼女にとっては良いことではない。彼女は反逆罪、扇動罪、暗殺、暗殺未遂などの罪に問われている」と関係者は語る。



クリントン軍事法廷 第1日目

By Michael Baxter - April 8, 2021(Real Raw Newsより)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/04/1.html>

ヒラリー・ローダム・クリントン氏の反逆罪、敵との共謀、政府財産の破壊、マネーロンダリング、殺人の共謀などの容疑が晴れるのか、あるいは最終的に絞首台や銃殺隊の前に立つことになるのかを決める軍事法廷が、木曜日の朝、グアンタナモ湾で開かれた。

3人の米軍将校(男性2人、女性1人)が裁判官と陪審員を兼任し、2時間にわたって、米海軍法務官軍団のジョン・G・ハンニク副提督が、クリントン氏に対する18の具体的な罪状を列挙し、国家と国民に対する無数の残虐行為に彼女が関与していることを示す、説得力のある動かぬ証拠を提供すると語った。

最もひどい容疑は、バラク・フセイン・オバマ政権下で国務長官を務めていたときに、**クリントン氏のやり方や動機に批判的な政治家やメディア団体に対する囑託殺人計画**にクリントン氏が関与しているというものだ。

ハンニク副提督は、2016年にワシントンD.C.のブルーミングデール地区で正体不明の襲撃者に背中を2発撃たれ、多くの陰謀論が浮上した民主党全国委員会の元職員セス・リッチ氏の殺害とクリントン氏を結びつけて審問を始めた。

彼は法廷で、クリントンが顧問で政治戦略家のフーマ・アベディンに送った電子メールを解読して見せた。そのメールには、クリントン氏の目標を示唆する短い不吉な言葉が書かれていた。"R.S.のためにディナーを手配中、すぐにわかるだろう"。

ハンニク副提督は、この無害な響きのメッセージは罪を認めたものだと主張した。R.S.-リッチのイニシャルを逆にしたもので、「ディナーを手配する」というのは、クリントンがリッチを始末するために暗殺者を雇ったことを意味していたのである。このメールの日付は、リッチが殺害される2日前の2016年7月8日だった。

さらに、ハンニク副提督は、クリントンがリッチの悲劇的な死のわずか数日前に、クリントン財団の銀行口座から15万ドルを引き出していたことを示す財務記録を作成した。

「彼女は、傲慢だけでなく、ずさんな人間だ。点と点を結ぶと、他に説明がつかない。クリントンはこの男を終わらせるために、金で雇った殺し屋と契約したのだ。何のために？彼が内部告発者だったかもしれないからか？」とハンニク副提督は主張した。

さらにクリントンは、保守派の最高裁判事アントニン・スカリアが2016年2月13日にテキサス州シャフターにあるシボロ・クリーク・ランチの寝室で不可解な窒息死を遂げた際、殺人の共犯として起訴された。郡の裁判官であるシンデラ・ゲバラは、スカリアの死因を自然死と宣告したが、検死は行われなかった。

予想外の動きとして、ハンニク副提督は、クリントンの元スタッフで、2016年の大統領選で彼女のシニア・ポリシー・アドバイザーを務めた**ジェイク・サリバン**という驚きの証人を出した。サリバンは、訴追免除と引き換えに、クリントンと元キャンペーンマネージャーのロビー・ムックと一緒に出席した会議の内容を語った。話題になったのはアントニン・スカリア判事だった。サリバンの証言によると、ムックはクリントンに、スカリアの「触媒的な保守的価値観」は進歩的なリベラリズムにとって大きな脅威であると語ったという。

「ロビー・ムックはヒラリーに、スカリア判事が『いなくなっても悪いことではない』と言い、ヒラリーは『確かに彼がいなくなっても構わない』と言いました。そして彼女はロビーに『彼はいなくなってもいいの？』そして、ロビーは『はい、彼はいなくなってもいいと思います』と答えたのです」とサリバン氏は法廷で語っている。

ハンニク副提督は、状況証拠とはいえ、クリントンが人命を軽視していたことを考えれば、証拠は十分に有罪であると主張した。

そのとき、それまで沈黙を守っていたクリントン氏が、発作のように震えだした。手首を拘束されていた彼女は、水を得た魚のように椅子から落ち、床にバタンと倒れた。

救急隊員が彼女をGITMOの医療病棟に連れて行き、ハンニク副提督は月曜日の午前10時まで法廷の休廷を宣言した。

クリントン軍事法廷 第2日目

By Michael Baxter -April 12, 2021 ([Real Raw News](#)より)<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/04/2.html>

ヒラリー・クリントンの軍事法廷は、木曜日の午後にてんかんの発作のように床に倒れたクリントンから始まった72時間の中断を経て、月曜日の朝にグアンタナモ湾で再開された。しかし、土曜日にGITMOの医療スタッフは、クリントン氏が裁判を引き延ばすために**病気を装った**可能性が高いとし、健康状態に問題はないと判断した。

月曜日の午前10時、ジョン・G・ハンニク副提督の冒頭のコメントは、クリントンの行動を揶揄するものだった。

「ヒラリー・ローダム・クリントンは、自分が有罪であることを知っている。そうでなければ、病気のふりをして手続きを遅らせたりしないだろう。この女性は徹底的に邪悪で、腐っていて、道徳心を失っている」とハンニク副提督は、クリントン氏の運命を最終的に決定する3人の士官による法廷で述べた。

木曜日の疑惑の文脈から離れて、ハンニク副提督は、我々RRNがこれまで聞いたことのないようなクリントンに対する告発をした。ハンニク副提督は、2010年に22万人の犠牲者を出した大地震で孤児となったと思われるハイチ人23人とアメリカ人3人の子供たちの失踪に、クリントンとクリントン財団を結びつける文書を作成した。

ハンニク副提督は、この事件がアメリカ国民に関わるものである以上、クリントン氏の罪を裁くのは法廷の義務であると述べた。

3人のアメリカ人の子供たち(4歳、7歳、12歳)は、島国で宣教活動をしている人道主義者の夫婦に属していた。地震発生の翌日、ハイチ当局は倒壊した自宅の瓦礫の中から、子供たちとベビーシッターと思われる年配のハイチ人女性の遺体を発見した。両親は、震源地に近いポルトープランスの西にある村でボランティア活動をしていた。

ハイチ政府は1週間かけて行方不明の両親を捜索したが、夫婦は地震で死亡したに違いないと結論づけた。

ハンニク副提督は、2010年1月24日、当時国務長官だったヒラリー・クリントン氏がルネ・プレヴァル大統領に連絡を取り、地震で人生を狂わされた親のいない子供たちを支援したいと述べたことを法廷で明らかにした。

ハンニク副提督は、クリントン氏とプレヴァル氏の間で交わされた一連の電子メールのやり取りを法廷で示した。その中でクリントンは、孤児の世話をするという申し出は、米国政府ではなく、**クリントン財団**を代表して行われたものであり、財団は子供たちが適切な養育縁組をできるようにするまで、里親を探すと明言していた。

「プレヴァルは、彼女の誠意を信じ、3人のアメリカ人の子供たちのことを話すと、彼女は『彼らの面倒も見ます』と言った。しかし、クリントンには下心があったことが証拠で示されている。**彼女は、自分が責任者を務める国務省にこの件を報告しなかった。**クリントン財団は、子供たちを島から脱出させるために船をチャーターしたのだ。

国務省にも厚生省にも、アメリカの子供たちがアメリカの地を踏んだという記録はない。

ハイチの子供たちも同様である。彼らはどこに行ったのか？ 空気中に消えてしまったのだろうか？ あなたが申し出をし、あなたの名前がメールにあり、あなたの財団が輸送を手配しました。何か言うことはありませんか？」。

審議が始まってから一言も発していなかったクリントン氏は、「クリントン財団に聞いてください」と言った。

「あなたは財団です」ハンニク副提督は言い返した。「クリントン財団は名前だけの財団です。クリントン財団は名ばかりの財団で、あなたと財団は同じ存在です」。

クリントンは骨の髄までじっとして、沈黙してしまった。

そしてハンニク副提督は重要な証人を紹介した。クリントン財団の元会計士、**ベサニー・グリーンバウム**である。彼女によると、クリントン財団は、スペインから運営するIYCヨットソリューションズに、1週間のヨットのレンタル料として300万ドルを支払っていたという。グリーンバウム氏は、145フィートのBliss号を、ホットタブやサウナ、搭載されたミニバーを備えた「パーティーボート」と呼んだ。

「ハイチへの航海を命じられてマイアミに運ばれたことは知っている。それ以上のことは何も知らないし、私は賢かったので質問しなかった」とグリーンバウムは法廷で語った。

「しかし、被告のヒラリー・ローダム・クリントンは、その支出を承認したのですね」とハンニク副提督が尋ねた。「はい、そうです」とグリーンバウムは答えた。

短い休息の後、ハンニク副提督は、**イタリア当局とIYC Yachting社が、軍によるヒラリー・クリントン氏の調査に協力することを拒否した**と述べた。

「我々は彼らが協力してくれると思っていたが、そうではなかった。被告は権力を持ち、保護されている女性だった。考えてみてほしい。2010年に高級ヨットを1週間借りたときの平均費用は、だいたい30万ドルだった。しかし、クリントン被告はその10倍の金額を支払っている。なぜか？ 彼女は確かに慈善家でもなければ、博愛主義者でもない。彼女が300万ドルで買ったのは、彼らの沈黙のためだったのだ」とハンニク副提督は推測している。

「2010年のヒラリー・クリントンは、地球上で最もパワフルな女性だったと言っても過言ではない。**国務長官として、実質的に無限の力を行使していた**。政府関係者であれば、公式のルートで子どもたちを救うことができたはずだが、彼女はサイドビジネスを行っていた。軍は、クリントンが個人的な利益のために子供たちを人身売買したと主張しているが、おそらく彼女がハイチから子供たちを脱出させるために費やした300万ドルよりもはるかに多いだろう。これはあなた方3人の将校が決めなければならないことだ」とハンニク副提督は続けた。

彼は午後2時半までの休会を命じた。



Vince Foster

Bernard Nussbaum

クリントン軍事法廷 第3日目

By Michael Baxter -2021年4月14日 (Real Raw Newsより翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/04/3.html>

火曜日、グアンタナモ湾でヒラリー・クリントンに対する軍事裁判を起訴しているジョン・G・ハンニク副提督は、アーカンソー州リトルロックのローズ法律事務所でクリントンの元同僚だった**ヴィンス・フォスター** (Vince Foster) の数十年前の死を持ち出した。彼はアーカンソー州の忠誠主義者がクリントン政権に加わる陰謀の一部としてワシントンにやってきた。

当時のクリントン大統領は、フォスターをホワイトハウス評議会の副議長に任命し、彼は政権幹部の審査を任されていた。しかし、フォスターは失敗の連続だった。クリントン氏が最初に指名した2人の司法長官は、不法移民を雇っていたために辞退せざるを得ず、フォスター氏はホワイトハウスのトラベルオフィスにいたクリントン氏の友人数人を解雇するというスキャンダルに巻き込まれてしまったのだ。

1993年7月20日、フォスターはバージニア州のフォート・マーシー・パークで、後頭部に3発の銃弾を受けて死亡しているのが発見された。公式の調査では、フォスターはビルとヒラリーを失望させたために自殺したと判断された。

「彼女がセス・リッチにしたことは、ヴィンス・フォスターにもしました。殺人に時効はありません」とハンニク副提督は3人の将校の審査員たちに語った。

クリントン大統領の下でホワイトハウスの顧問を務めたことで知られるアメリカの弁護士、**バーナード・ウィリアム・ヌスバウム** (Bernard William Nussbaum) 氏がビデオ会議で審議に加わった。

「ヌスバウムさん、あなたが宣誓したときに私に言ったことを、この法廷で正確に話してください」とハンニク副提督が言った。

「私は年老いた男であり、あまりにも多くの秘密と、あまりにも多くの後悔を抱えています。1993年6月14日、私はヒラリー・クリントンがホワイトハウスの補佐官、ジョン・ポデスタ(当時)に、ヴィンス・フォスターが自分とビルとの両方にとって重大な脅威となっているので、何か手を打つ必要があると話しているのを耳にしました。それから1か月余り後、もちろん彼は遺体で発見されました」とヌスバウムは述べた。

「あなたの記憶に間違いはありませんか？」とハンニク副提督が尋ねた。
「残念ながら、そうです」とヌスバウムは答えた。

ハンニク副提督は、クリントンがフォスターの死を命じたのは、彼が彼女を脅迫していたか、あるいは単に未解決の問題を片付ける必要があったからだ、という自分の主張を法廷に提出した。

クリントンは、何百人、何千人もの人を殺した責任があると主張した。

「しかし、それらすべての死に対して彼女を有罪にするのはあなたの仕事ではありません。

完全に調査するには一生かかるでしょう。

拘留者の命を保証するためには、これらの罪状のうち1つだけでも有罪を決定する必要があります。殺人の共謀でも反逆罪でも何でもいいのです」とハンニク副提督は述べた。

ハンニク副提督は、さらに多くのことが起こるだろうと付け加え、法廷は水曜日の午後まで中断された。



クリントン軍事法廷 第4日目

By Michael Baxter -2021年4月15日 ([Real Raw News](https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/04/4.html)より)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/04/4.html>

水曜日のグアンタナモ湾での審理は、ジョン・G・ハンニク副提督が、ヒラリー・クリントンと彼女のキャンペーン・マネージャーである**ジョン・ポデスタ**との間で 2016年9月28日と10月10日(それぞれ第1回と第2回の大統領討論会の翌日)に行われた一連の電子メールのやり取りを、3人の士官に見せることから始まった。

これらのメールは、クリントン氏の悪名高い私的なメールサーバー(当時はずでに解体されていた)ではなく、Gmailに代わるYandexと呼ばれる公共の無料メールサービスで送受信されていたと指摘している。

ハンニク副提督は、このメールの内容は、クリントンがいかに傲慢で思い上がった態度をとり、共犯者に支えられて、誤った無敵感を抱いていたかを物語っていると述べている。

クリントンがポデスタに送った最初のメールのタイムスタンプは、2016年9月28日午後6時45分だった。

このメールの中で、クリントンは、討論会の聴衆の中に、自分のビジョンよりも**トランプ**のアメリカに対するビジョンを支持しているような人が多いことへの怒りを表明していた。

ハンニク副提督は、法廷で短い(彼女の)メッセージを復唱した。「彼(トランプ)は尊大な愚か者だが、彼のメッセージは危険なまでに、彼のとんでもなく哀れな群衆と共鳴している。

愚か者が話すと、彼らは耳を傾ける。心配はしていないが、もっと注意深く見ているべきだった。

今はもっと注意深く見ていなければならない。事故は起こる」。

「クリントンが書いたこの手紙は、第2回大統領討論会の翌日の夜にポデスタに送られました。そして、私は読みます『あの野郎が、自分が大統領になったら私は刑務所に入ることになる』と言ったことがまだ信じられない。彼が私を刑務所に送ることも、大統領になることもできるように。そして、彼に万雷の拍手を送る馬鹿者たち。金があっても無敵ではない。私は、彼が理解できない言葉を使うのが好きだから、彼の存在を酸で洗い流そうと真剣に考えている。彼が私に触れるチャンスはない。私たちはそれができる。どうだ?』」

ハンニク副提督は、手錠をかけられたクリントンを見て、自分の行動について話す気があるかどうかを尋ねた。彼女は暗いくすんだ目を彼に向けたが、何も言わず、法廷が始まってからずっと同じように寡黙な態度を貫いた。

ハンニク副提督は、「あなたの沈黙がすべてを物語っています、クリントン被拘禁者、あなたはこの委員会を脅かすことはありません」と言った。

「ポデスタは、1時間後に彼女に返信を送った。今夜はお酒を飲んでいるのかどうかわからない。言葉には気をつけてください。彼は無名ではないし、彼を舞台から追い出すには面倒な予防措置が必要だ。配管工が必要かもしれない」。

「私は、彼らがドナルド・トランプを殺害することを暗黙のうちに共謀していたと主張します」とハンニク副提督は続けた。「しかし、あなた方のような合理的な役員は、言葉や書面による脅迫が現代社会、特にソーシャルメディア上ではありふれたものであることを認識しているでしょう。

シークレットサービスは4年間で、ドナルド・トランプ氏に対する13万2千件以上の脅迫を調査しました。

そして、その人たちはここで法廷に直面していません。

クリントンは、当時のトランプのライバルとして、平均的な不満を持つトランプ嫌いの人々よりも高い基準を持っていなければなりません。加えて、彼女はポデスタとの間に前後関係があり、それは共謀に等しい。まだまだ、あるのです。」

彼は部屋のドアを守っている憲兵に、軍の証人が証言する準備ができているかどうかを尋ねた。憲兵たちは一旦部屋を出て、白い囚人服を着た**ジョン・ポデスタ**を連れて戻ってきた。前述したように、トランプ大統領の権限で動く米軍特殊部隊が、イースターの日曜日にポデスタと妻のメアリーを逮捕したのだ。

憲兵たちは、ポデスタをクリントンの真向かいに座らせた。クリントンは目をナイフで切ったような細く開き、かつての友人であり選挙マネージャーであるポデスタをじっと見つめた。

ハンニク副提督は続けた。「抑留者クリントン、この男はもうすぐ自分の裁判を受けることになるが、君とは違って、彼は喜んで話をする。ポデスタさん、私はイエスかノーかの答えが欲しいのです。ですから、私が指示しない限り、答えについて説明しないでください。メールはさておき、ヒラリー・クリントンは、ドナルド・トランプを暗殺させるつもりだと、面と向かってはっきりとあなたに言いましたか?」

「はい」とポデスタは震えるような小声で言った。

ハンニク副提督は、「この法廷で、クリントンが何を言ったのか正確に教えてください」と尋ねた。

「ヒラリーと私はチャパクアで一緒になり、第2回目の討論会の3日後に、**彼女は私にトランプを殺す人を雇うように頼みました。結局、リスクが高すぎて実行には至りませんでした**が、彼女は何日も前から私に『何とかしてくれ』としきりに言っていました。彼女は500万ドルを払う用意があった」とポデスタは語った。ハンニク副長官は、ポデスタに誰を雇うつもりなのかと尋ねた。

「彼女には多くの元諜報機関・CIAの友人がいます。4、5人のリストを持っていました。1人には2.5ドルを海外口座に送金し契約完了時に残額を支払う予定でした」とポデスタは言った。

「ヒラリー・クリントンの指示で？」とハンニク副提督が尋ねた。

「はい」。

ポDESTaは、自分とクリントンが関係した殺し屋の名前を開示しなくてもよいと約束されていたと言った。

「ヒラリー・クリントンのアイデアで中止になったのですか？」ハンニク副提督が尋ねた。

「いいえ、私の考えです。実際、あまりにも危険だと思ったので、彼女に隠れて中止しました。彼は、約束どおり2.5をキープしました」とポDESTaは答えた。

「協力する代わりに、死刑以下の刑罰が保証されているので、証言を捏造していないのですか」。ハンニク副提督は言った。

「きょう、私が言ったことは真実です。ヒラリー・クリントンは、殺人者であり、ナルシストであり、悪質な女だ」とポDESTaは言い、法廷室から護送されていった。

最後にハンニク副提督は、木曜日の午後に最終的な証拠を提出すると法廷で述べ、クリントン氏に対する軍の訴訟を裁く将校たちに、一つ一つの証拠を慎重かつ丹念に吟味するよう促した。

委員会は、木曜日の正午(米国東部時間)に再開されると述べた。



クリントン軍事法廷 第5日目 有罪判決

By Michael Baxter - 2021年4月16日 (Real Raw Newsより)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/04/5.html>

ヒラリー・クリントン元国務長官の軍事法廷は16日、殺人、殺人の共謀、殺人の共犯、児童売買、未成年者への危険行為、反逆、扇動の罪で有罪判決を下した。

男性2名、女性1名で構成された委員会は、クリントン氏に対する軍の訴訟を担当したジョン・G・ハンニク副提督が、クリントン氏の元戦略家で愛人の**フーマ・アベディン**氏を検察側の最後の証人として紹介した直後に、満場一致で評決を下した。

アベディンは、減免と司法取引の代わりに、クリントンと一緒に、別居中の元夫アンソニー・ウィーナーと未成年の子供を「共有」していたことを証言した。

アベディンは、「共有」という言葉の定義を明確にするよう求められ、クリントンがアメリカに輸入した恵まれない未成年者に対して、淫らな行為を「練習」したと答えて、回答を修正した。

「アメリカの子供たち？」ハンニク副提督が尋ねた。

「そうですが、主にそうではありません。彼らを追跡するのは簡単すぎます。貧しい国の子供であることが多いですね」とアベディンは答えた。

「どのようにしてこれらの子供たちを手に入れたのか話してくれますか？」とハンニク副提督が尋ねた。

「ヒラリーは政府の資格を利用しました。国務長官、元国務長官、元ファーストレディとしての全権委任状を持っていました。シリアやアフガニスタン、イラクなどから孤児を連れてくるのは簡単なことでした。誰も質問しないのです。探す人もいませんでした」とアベディンは冷淡に答えた。

アベディン氏は、クリントン氏が実りある生活を提供すると称して米国に連れてきた未成年の少年少女の数は数えられないとしながらも、法廷では「多くの子供たちがいた」と述べ、そのほとんどが後にクリントン派の有力者に「売られたり寄付されたりした」と語った。

「その人たちは誰ですか？」とハンニク副提督が尋ねた。
「私たちは正確には知りませんでした。ヒラリーが自分で売り込んだわけではありません。彼女は誰かにそれを扱わせていて、私はその人の名前を知りません」とアベディンは答えた。

ハンニク副提督は、「それにしても、彼女はまだ話すことを拒否しています」と指摘した。

ハンニク副提督は、クリントンがアメリカと人類に対して行った残虐行為について、軍が圧倒的な証拠を提示したことについて、十分に聞いたかどうかを法廷に尋ねた。通常の刑事裁判とは異なり、クリントンを有罪にするためには、全会一致の評決は必要ない。多数決であれば、正義は満たされるのである。

委員会は、わずか5分の審議で有罪の評決を下した。
セス・リッチ、ヴィンス・フォスター、アントニン・スカリア最高裁判事の殺害、ハイチをはじめとする第三世界の未成年者の売買と虐待、大統領候補者暗殺の共謀など、軍が用意したすべての容疑について、クリントンを有罪としたのである。

判決文が読み上げられ、死刑を勧告されても、クリントンは裁判中と同様、不気味に沈黙していた。
ハンニク副提督は、軍がどのように刑を執行するかについて希望があるかどうかをクリントンに尋ねたが、彼女はまだ何も語ろうとしなかった。

「あなたは弁護士を拒否しました。あなたは弁護人を拒み、自分を守ることを拒んだ。
よって本法廷は、被告であるヒラリー・ローダム・クリントン被収容者を、死ぬまで首吊りにすることを決定する」とハンニク副提督はきっぱりと言った。判決は4月26日のタプス(葬送のラッパ)の後に執行される。

RRNの情報によると、フーマ・アベディンは彼女自身の軍事裁判を受けることになる。



ヒラリー・クリントン、GITMOで絞首刑に

By Michael Baxter -2021年4月26日 ([Real Raw News](https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/04/gitmo.html)より翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/04/gitmo.html>

ハラペーニョ入りスクランブルエッグとストロベリーミルクケーキ。死刑囚の最後の食事です。
ヒラリー・ローダム・クリントンは月曜日の夜、グアンタナモ湾で絞首刑に処された。
彼女の死は、ドナルド・トランプの権限を持つ米海軍特殊部隊が、失脚した政治家をニューヨーク州チャパクアの邸宅で逮捕した3月2日に始まった作戦の集大成である。
世界で最も悪名高い拘置所で行われた5日間の法廷の後、3人の士官による委員会は、クリントンに殺人、殺人の共犯、反逆、児童売買、その他の重大な犯罪の罪を認めた。
弁護人を拒否していたクリントンは、審理中一言も発せず、ジョン・G・ハンニク副提督の死刑判決を淡々と受け止めていた。



John G. Hannink

絞首刑が行われたのは午後9時5分、世界各地の米軍基地で静寂の時報を告げるタップス(消灯ラッパ)の後すぐだった。

John G. Hanninkジョン・G・ハンニク副提督は、3人の統合参謀本部と、ダークスーツに深紅のネクタイを締めたドナルド・J・トランプ氏を含む小さな集会で、『今夜、世界はより静かに眠ることになる』と語った。その横には、Cに不利な証拠を集めたマイケル・ポンペオ氏とルディ・ジュリアーニ元ニューヨーク市長が控えていた。

拘束されたヒラリー・クリントンは、軍の警護のもと、キャンプ・デルタ収容棟から、陸軍工兵隊がGITMOの南端にあるウィンドワード・ポイント灯台近くの空き地に設置した鉄格子の絞首台に連れて行かれた。鉄骨の梁に取り付けられた長方形の箱には、円形の赤いボタンが5つ突き出ている。それぞれのボタンの前には、制服を着た兵士が立っている。壇上では、別の兵士が編み込みの縄をクリントンの首にかけた。

ハンニク副提督は死刑執行の詳細について述べた。「私が『準備完了』と言ったら、その一瞬前ではなく、左手の人差し指をボタンの前に立ててください。私が『実行』と言うまで、ボタンを押したままにしてください。5つのボタンのうち1つだけがドアを作動させますが、それがどのボタンだったかは誰にも分かりません。この指示を理解できましたか？」

「Yes, sir」と5人は一斉に叫んだ。

聖職者と医師が13段の階段を登り、Cの首に縄がかかっているかどうかを確認している兵士のそばに立った。その下でハンニク副提督が、Cが最後の儀式を望んでいるか、最後に何か言いたいことはないかと尋ねた。

クリントンは黙っていた。「私はヒラリー・クリントンだから、こんなことはできないわ」と、魔女のような声で言った。

ドナルド・J・トランプは彼女に向かって「もう終わった」と叫んだ。

「準備完了」ハンニク副提督は、実行部隊に向かってうなずいた。

兵士たちがボタンを押すと、クリントンの足元の格子が開いた。足首に手錠をかけられたままの彼女の足腰は、一瞬ピクリと動いた後、止まった。

縄が切れ、クリントンの死体は湿った草むらに横たわっていた。その場にいた医師が彼女のバイタルをチェックし、死亡を宣言した。

ディープステートを消滅させるというトランプ大統領のミッションに関与しているある機密情報源によると、全体的に沈鬱で憂鬱な雰囲気だったという。祝賀も歓喜もなく、ただ満足した雰囲気、やるべきことはやったという認識だった。彼女が犯した罪の内容が、お祝いの気持ちを覆い隠していたのだ。しかし、40年に及ぶ恐怖の支配は終わりを告げた。

「トランプは彼女を憎んでいましたが、これは純粋なビジネスでした。彼は、彼女が自分にしたことよりも、彼女の手で苦しんだ子供たちのことを気にかけています。そう、彼女の終焉はディープステートにシグナルを送ることになります。しかし、トランプ氏はまだまだ続くことを知っており、仕事が終わるまで祝杯をあげることはないでしょう」と関係者は語っている。

ハンニク副提督が「クリントンは、何百人、何千人もの人を殺した責任があり、それらすべての死に対して彼女を有罪にする調査には一生かかるでしょう。」と述べたように、ヒラリー・クリントンの犯罪はビル・ゲイツのように 狂気に満ちています。

次に ヒラリー・クリントンのマネージャーだった、ジョン・ポDESTAの軍事法廷を取り上げます。



軍がポデスタの司法取引を撤回:「彼を絞首刑にせよ!」

By Michael Baxter -2021年5月3日

10

https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/05/blog-post_98.html

海軍法務総監事務所の代表は日曜日、投獄されているジョン・ポデスタ氏に、ヒラリー・クリントン氏に不利な証言をした代わりに最高で終身刑を保証するという司法取引を米軍が撤回したことを伝えた。司法取引の保護がなければ、ポデスタはヒラリー・クリントンと同じように絞首刑に処される可能性がある。

軍の訴訟プロセスに関わる機密情報源がRRNに語ったところによると、法務総監当局はポデスタが非公開の宣誓証言で行った罪の告白を何日もかけて精査したという。

彼の罪があまりにも重いため、法務総監は最初に契約書を提示したことを後悔しているという。

「ジョン・G・ハンニク副提督は、ポデスタの事件を起訴していないにもかかわらず、契約を破棄する決断をしました。彼はその申し出をした人です。ポデスタの罪の重さは、クリントンのそれと一致しています。」

考えてみると、彼が特別扱われる理由は本当にありません。彼はソドム主義者なのですから。

契約を破棄する前に、彼はトランプに電話をかけました」と情報源は語った。

しかし、トランプ氏は、被告に対する個人的な感情が軍の司法を妨げることを嫌って、決定プロセスから身を引いたと関係者は述べている。軍は、ポデスタの将来を決定する際には、入手可能な証拠に基づいて独自の裁量を行うべきだと、トランプ氏は述べている。

「法廷が彼を絞首刑にしたいのであれば、絞首刑にすればいい」とトランプ氏は語ったという。

ポデスタ氏は、「土壇場での裏切り」と呼ばれるものに興奮しておらず、法務総監は契約を守るつもりはなく、偽りの口実でクリントン氏に不利な証言をするように騙されたと語ったと、情報筋は付け加えています。

彼は法務総監の役員を非難し、「職業倫理」に違反していると非難し、協力をやめることを誓った。

「ポデスタの主張は無意味でした。彼はすでに救いようのないほどの罪を犯しており、圧力を受けて宣誓書を提出したと主張する彼の脅しは耳に入らず、法廷は火曜日にすべてを聞くことになるでしょう」と情報源は語った。

ポデスタ氏の法廷は5月4日の正午に開始される予定である。

ポデスタ軍事法廷 第1日目

By Michael Baxter -2021年5月4日 (Real Raw Newsより翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/05/1.html>

火曜日の朝、グアンタナモ湾では、反逆罪、殺人の共犯、無数の児童性犯罪の罪に問われているCの共犯者、ジョン・ポデスタに対する米軍の裁判が開始され、火花が散った。

米海軍法務顧問団のダース・E・クランドール・Jr少将は、ポデスタを、ヒラリー・クリントンが1990年代初頭に自分の「極悪非道な陰謀」に引き入れた、聖人ぶった独りよがりの下僕だと描いて審理を始めた。

ポデスタの権力とキャッシュへの飽くなき渴望が、かろうじて有能な弁護士をして、主人をなだめるために魂を犠牲にし、言葉にできない犯罪を犯した、文字通りの「イエスマン」に変えてしまったのだ、とクランドール少将は、軍の訴訟のメリットを判断するために選ばれた3人の士官と全員が女性の委員会に語ったのである。

将校たちは、それぞれの軍服に身を包み、クランドール少将が2003年から2014年の間にポデスタに性的虐待を受けたとされる50人の男女の未成年者の名前を書き連ねるのを聞いた。

提督は、ポデスタの魔手から逃れた被害者の宣誓供述書を12枚作成した。現在は成人しているが、ほとんどの被害者は、ポデスタが被害者の両親に、子供たちが政治家やモデル、ハリウッドスターになるように仕込まれていると説得したとき、9歳から12歳であった。2012年7月、10歳のヘンリー・レイは、ポデスタとの出会いをきっかけに、自分の子供が政治家やモデル、ハリウッドスターになるように仕込まれていることを知った。

2012年7月、10歳のヘンリー・レイバーン(本名ではない)は、ワシントンの社交家である両親の友人としてポデスタに紹介されたが、両親は子供の世話よりも外交の場での歓談に時間を費やしていた。ヘンリーの両親は、ポデスタが幼いヘンリーをディズニーランドに連れて行ってミッキーマウスに会わせると言っても、迷わなかった。宣誓供述書によると、ポデスタは自家用機をチャーターして、4人の子供たちとオーランドに「付き添った」という。

クランドール少将は、その一部をパネルに向かって読み上げた。

「私はミッキーマウスに会ったことはありません。フロリダに到着した後、ジョン・ポデスタは私たちがホテルに行くと言い、ミッキーに会う前にピザとソーダを注文して食べさせてくれましたと言いました。忘れようと思っても、ひとつだけ鮮明に覚えていることがあります。それは、食後にふらふらと目眩がして、汗だくで目が覚め、目隠しをされて顔を下に向けられ、今では廃墟となった倉庫の中で金属製のテーブルに縛り付けられたことです。体中が痛くて、悪夢だったのではないかと思うほどでした。叫ぼうとしても、言葉がゆっくりと変になってしまいました。

(内容が読むに堪えないので中略)

ポデスタは飛行機に乗っていなかったし、少なくとも私は彼を見ていません。また、見覚えのない男性が、私が病気になるまでミッキーマウスに会えなくなったので、早く帰らされると言いました。他の子供たちについて尋ねると、彼らはまだオーランドにいたと言われました。全身打撲で、**前腕には採血でできた大きな血腫**があったのに、両親は「気のせいだ」と説得してきました。両親は決して認めませんでした。私は両親が口止め料をもらったと思っています。私は黙っていました。10歳の生意気な子供を誰が信じるでしょうか」。

「他の11枚の宣誓供述書は似たような内容で共通点があります。これらは争うべき議論ではありません。ジョン・ポデスタ氏は公判前にそのことを認めており、我々はそれをすべてテープに記録しています。ポデスタは、**子供たちに連続した儀式的虐待を行い、親を買収して脅迫し、口止めをしていました。**彼とクリントンは、これらの犯罪に平然と参加していたのです」とクランドール少将はパネルに向かって語った。

4月26日にGITMOで死刑が執行されたクリントンとは異なり、ポデスタ氏は自分のために弁護人を雇っていた。弁護人のトリシャ・アンダーソンは、グアンタナモ湾では知らない人はいない。2013年から2016年にかけて、彼女はGITMOに収容された17人のイエメン人ジハーディストの一次弁護人を務めた。彼女は、ポデスタが罪を認めたのは、法廷のわずか2日前に軍が取り消した司法取引が条件だったと主張した。彼女は、ポデスタは善意で合意に署名したのであり、法務総監は「彼の下から敷物を取り除く」ことで彼の権利を侵害したと述べた。

クランドール少将は、不法戦闘員として拘束されたポデスタには何の権利もなく、証拠の有効性を判断するのはアンダーソン氏ではなく、彼らの義務であることをパネルに念押しした。「司法取引を撤回した今、彼は突然、起訴された罪を犯していないことになります。魅力的ですね」とクランドール少将は語った。

短い休息の後、彼は次の証拠を発表した。

それは、2013年にヒラリー・クリントンがニューヨーク州チャパクアの邸宅で開催した「プールパーティ」で、ポデスタが自分と妹の前で「露出」したと主張する19歳の男性の録画ビデオ証言だった。この男性は、クリントン夫妻の長年の友人である夫妻の息子であると名乗っている。

「ジョン・ポデスタが、『子供たちはみんなこれを見たがっている』と言っていました」と、その男性は震えるような声で語った。「ヒラリーもビルもいました。チャック・シューマーもいました。俳優の**トム・ハンクス**、見覚えのない人もたくさんいました。彼らは皆、何が起きているのかを知っていた。彼は私と妹に自分の〇〇〇を触らせようとしてました。彼はその小さなものを振り回し始めたのです」。

法廷では、眼鏡の奥のポデスタの顔から涙が流れ落ちていた。

クランドール少将は、「彼が泣いているのは、反省しているからではなく、捕まったからだ」と言った。「あなた方優秀な将校には自分の子供がいる。考えられないことですが、もしこれがあなたの子供だったらと想像してみてください。

まだまだ発表したいことがあります、異議がなければ、この委員会は明日の11時まで休会します」。

うずくまったポデスタは、手首に手錠をかけられ、弁護士に付き添われて法廷から退出した。



ポデスタ軍事法廷 第2日目

By Michael Baxter -2021年5月6日 (Real Raw Newsより翻訳)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/05/2.html>

水曜日の午後、クランドール少将が登場した。

「被告は無実の子供を虐待しただけでなく、不気味な犯罪を実行するために薬を飲んでいました」と、クランドール少将は3人の士官と全員女性のパネルに語りかけた。

「ジョン・ポデスタは、成人してからずっと勃起不全でした。公判前に彼はこのことを認めており、皆さんの前には彼の自筆の署名が入った陳述書のコピーがあります。この病気を改善するために、ポデスタは多くの男性がすることをしました。ED治療薬(彼の場合はシアリス)を処方してもらったのです。しかし、多くの男性とは異なり、ポデスタはこの薬を大人のパートナーと合意の上でのセックスのために使ったのではありません。思春期の子供たちを脅すために使ったのです。このことを理解してください。ジョン・ポデスタは子供とセックスするために勃起不全薬を飲んだのです」。

ポデスタ氏の供述によると、彼はシアリスを服用することに飽き飽きしていた。シアリスを服用すると、服用後に無気力になり、吐き気を催すことがあったという。2009年8月、風邪から肺炎まで、勃起不全からステージ4の膵臓がんまで治すとされる「奇跡の薬」の話聞いた。

この治療法をポデスタに教えてくれたのは、ウィリアム・ジェファーソン・クリントン(**ビル・クリントン**)で、彼は30年近くこの治療法を自己投与していたとポデスタは主張している。

この治療法は、若くて怯えている子供の副腎から血液を採取するというものだった。ポデスタは、法務総監に提した陳述書の中で、若くて怯えている子供ほど良いと書いている。

子供たちが底知れぬ恐怖に襲われているときに、何度も血液を採取した。腎臓の上にある小さな腺から採血するので、注射を打つのは非常に痛かった。

「ポデスタによると、血液は遠心分離機で回転させられた後、冷蔵されて**スイスの'地下'研究所**に送られ、そこで他の化学物質と混ぜ合わされて減衰させられ、注射すると受け手は新たな活力を得ることができたそうです。また、彼はそれでEDが治ったことはないと言っています。このおとぎ話のような化合物の効果を裏付ける科学的証拠は何もないが、彼は、自分や数え切れないほどの人々が、若々しく元気になるために、そして、うーん、寿命を延ばすために飲んでいていると言っています」とクランドール少将は語っている。

ポデスタ氏は声明の中で、**アドレノクロム-C9H9NO3CU7TI9CN5**と名づけたこの薬品は、注射で投与されるか、あるいはより効率的には生理食塩水に懸濁して静脈内に投与されたと述べている。彼は、2009年から12回の注入を受けたと書いている。

「この悪魔は、この製品が何千人もの裕福な人々に使われていると言っています。裕福な理由は、彼が言うには、**1回の注射で約\$250,000、1回の注入で\$425,000** かかるからだそうです。はっきりさせておきたいのは、これは気持ちの悪い話であり、もし事実であれば、これを摂取した人々はいずれ法の裁きを受けることになるだろうということです」とクランドール少将は語った。

手錠をかけられたポデスタ氏は、弁護士の横で机に肘をついて黙って座っていた。そのまま頭を下げて、自分の運命を決める3人の警官を見ようとしなかった。

クランドール少将は、木曜日の午後に検察側が最終的な証拠を提出すると述べた。



ポデスタ軍事法廷 第3日目 有罪！

By Michael Baxter - 2021年5月7日 [元記事](#)

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/05/3.html>

木曜日、クランドール少将が裁判長を務める軍事裁判部は、ポデスタが小さな子供に夢中になっていたことから離れ、彼がドナルド・トランプとその家族に対して行った犯罪行為に焦点を当てた。

クランドール少将は、ポデスタが裁判の前に書いて署名した罪状報告書を、軍が死刑を取り消す司法取引を取り消す前に、3人の女性将校に見せた。ある声明には、ポデスタとヒラリー・クリントン、そして当時の民主党全国委員会(DNC)議長の**ドナ・ブラジル**が、2016年の大統領選挙から降りるようにトランプを恐喝する計画を立てたことが書かれていた。ポデスタの発案によるこの計画は、トランプ氏の末子の**バロン**を誘拐し、トランプ氏が誘拐犯の要求に従わなければ「バラバラにして家に送る」と脅すというものだった。



ポデスタは、自分たちの参加を曖昧にするために、DNCとは関係のない第三者を使い、中国人を雇ってバロン・トランプをつかまえることを提案した。当時、バロンは10歳で、通常は母親のメラニア・トランプと一緒に行動していた。火曜日と金曜日の午後は例外だった。その日の2時間、バロンは母親のそばを離れ、シークレットサービスに連れられて、ニューヨークの高級玩具店「FAO Schwartz」や「Kidding Around」など、シークレット・サービスが厳しく審査した子供向けの店に行った。

「彼らはトランプ家のスケジュールを把握していました。シークレット・サービスを買収するか、気をそらすことで若いバロンを誘拐するつもりでした。この計画は実行されませんでした。それは問題ではありません。犯罪を犯すための共謀は、法的に認められた犯罪です。この傲慢さには呆れるばかりです」とクランドール少将はパネルに向かって語った。

さらに彼は、ポデスタがクリントンとブラジルに送ったメールをパネルに見せた。「困難だが、可能だ。難しいが、可能だ。しかし、もし『B』を獲得すれば『D』には選択肢がなくなる」とメールには書かれていた。ブラジルからの返信には、「Let's do it(さあ、やろう)」とあった。



「クリントンとその手下、つまり被告は、公にはヒラリーがその選挙に勝つと確信していました。内心では、トランプが勝つのではないかという恐怖心があふれていました。恐怖のあまり、彼の息子を誘拐したいと思っていました。傲慢さと恐怖心の両方が溢れていたのです」とクランドール少将は語った。

短い休息の後、クランドール少将は、2017年5月23～24日にバチカン市国を訪問中のドナルド・J・トランプ大統領を暗殺するためにポデスタとクリントンが仕組んだ計画に焦点を当てた。

ポデスタの告白書には、使徒宮殿でトランプを殺害するために誰かを雇うという恐ろしい話がかかれていた。この場合、トランプ氏を殺害する計画は失敗したが、それでも一人の命が失われた。

クランドール少将は、ポデスタの告白を読み上げた。「トランプを排除するのは、ペンスの方が気が合う分かっていたので、二人のアイデアでした。ヒラリーはバチカンにコネクションを持っていて、ヴィットーレ・マッツィという名前しか知らない男に連絡を取るように頼られました。私たちは彼に250万ドル相当を送金し、詳細は知らない、結果だけを知りたいと伝えました。すると彼は、トランプのディナープレートに毒を盛って、トランプだけが毒入りの料理を食べられるようにする、と暗号のような返事をしてきました。仕事が完了するか、ネットワークニュースでトランプが死んだと発表されるまでは返事を期待していなかったため、夕食の予定が決まるまでは彼が返信したメールアドレスを確認しませんでした。もっと早く確認していれば、『トランプを殺す方法を変えろ』と言っていたでしょう。もちろん、国内はもちろん、海外旅行にもフードテスターが同行していることを知っているからです。その後すぐに、トランプ氏以外の誰かが彼の皿の食べ物を食べて死んだことを知りました。大統領が食品検査官を雇っていることは公になっていないはずで、それが公になることでシークレット・サービスに対する世論が悪くなることを恐れた政権がそれを隠蔽しました。それが私の学んだことです。バチカンに秘密にしておいてくれと頼んだとしか思えません」。

「被告は哀れな策士でした。クリントンがあなたにこれらの犯罪を計画するように命じたとき、物事はいつもうまくいかなかったようです。あなたの関与は議論の余地がありません。声明や電子メールにかかわらず、自分の口から、クリントンの裁判でこれらの犯罪を認めたのです。この委員会は、何週間、何か月もかけて彼の広範な犯罪歴を明らかにすることができますが、私たちには裁きを受けるべき人たちがいます」とクランドール少将はパネルに向かって語った。

涙を流して不機嫌なポデスタは、椅子の上でうつむいていた。その横では、顧問弁護士のトリシャ・アンダーソンがMacBookの画面を見つめ、キーを叩いていた。彼女はゆっくりと立ち上がると、不機嫌な笑みを浮かべながら陳述を求めた。「私のクライアントが罪を認めたのは、誠意ある合意に基づいていたことを委員会に伝えます。法務総監はポデスタ氏におとり捜査をしたのです。自分が死刑になるかもしれないと知っていたら、協力しなかったでしょう。米軍は司法を破壊し、ポデスタ氏は、決して絵に描いたような完璧な人間ではなく、私たちの中で誰がそうなのか、ルールを敷かれているのです。女性の皆さん、将校の皆さんは、ポデスタ氏の結果を決める前に、法務総監の行動を考慮してください」とトリシャ・アンダーソン氏は語った。

クランドール少将は、起訴内容を簡単に説明し、軍事委員会は民事裁判所とは異なり、有罪にするためには過半数の投票が必要であることをパネルに伝えた。また、この法廷は、やはり民事裁判とは異なり、独立した刑罰段階を持たず、有罪の決定がなされた時点で判決が下されると述べた。パネルは、一瞬のためらいもなく、ポデスタをすべての罪で有罪とする評決を下したことを発表した。判決では、ポデスタに死刑を勧告した。

「アンダーソンさん、あなたの依頼人は評決を理解していますか？ また、どのように刑を執行するかについて希望はありますか？」とクランドール少将が尋ねた。

ポデスタは泣き崩れ、肩を震わせた。

トリシャ・アンダーソンが言った。「あなたは彼を殺そうとしているのですから、あなたが決めてください」。

「よろしい。本委員会は、ジョン・ポデスタを銃殺刑に処することを決定し、その行為は6月1日に実行されます。軍事法廷委員会のこのセッションは終了しました」とクランドール少将が言った。

ポデスタ氏が立ち上がって法廷から退出する際、彼の弁護人は、この判決を誰にでも、そして聞こうとする皆に訴えると言っていた。



ジョン・ポデスタ、GITMOで処刑される

By Michael Baxter -2021年6月1日 ([Real Raw News](https://realrawnews.com)より翻訳)

15

<https://realrawnewsj.blogspot.com/2021/06/gitmo.html>

裏切り者。殺人者。ペドフィリア(小児性愛者)。ルシフェリアン(悪魔崇拜主義者)。クリントンとの共謀者。ジョン・ポデスタはまさに悪の権化だった。

火曜日の朝、GITMO時間の午前8時ちょうどに、海兵隊員のボランティアで構成された軍の射撃隊が、ポデスタに6連射を発射した。

その2時間前、憲兵隊がポデスタを起こし、最後の食事をするかどうか尋ねた。涙を流して震えていたポデスタは、ドナルド・J・トランプと米軍が無実の男に有罪判決を下したと愚痴りながら、食欲がないと言って最後の食事を拒否したという。

手首と足首を拘束されたポデスタは軍用車両に乗せられ、映画『ア・フュー・グッドメン』に登場する架空のネイサン・R・ジェセップ大佐が住むマリーンヒルの南東1キロにある空き地に向かった。そこは、刈り込んだばかりの草と6フィート×6フィート×2フィートのセメントの壁があるだけで、何も無い場所だった。

2人の憲兵が軍用車両からポデスタを降ろし、セメントのバリケードの前に連れて行き、その前で動かないように要求するのを、軍人と民間人の少数の見物人が見ていた。

最もよく知られている出席者は、ポデスタに対する軍の訴訟を起訴したクランドール少将と、驚くべきことに、反逆罪に問われているマーク・A・ミリー元帥を退けて統合参謀本部議長に就任したばかりの**デビッド・H・バーガー海兵隊大将**であった。

6人の海兵隊員がライフルを構え、20ヤードの距離でバリケードとポデスタに向かった。「死刑囚が最後の言葉を言いたいなら、あるいは最後の儀式をしたいなら、今がその時だ」とクランドール少将は言った。

「私は死にたくありません。私は何もしていません。私は何もしていません。これは正当な手続きに対する異常な違反です。こんな風に一人で死ぬのは嫌です」とポデスタは言った。

ベルガー将軍が発言した。「孤独死を心配する必要はありません。あなたがどこへ行こうとも、ヒラリーがあなたを待っているし、私たちはもっとたくさんの仲間をあなたの所に送るだろう」。

ポデスタは、目隠しをしてほしいかと聞かれて、「関係ないでしょう」と答えた。

クランドール少将は、銃殺隊に向かってこう言った。「私が発射命令を出したら、君たちはライフルを同時に、中心に向けて撃つんだ。ライフルのマガジンには1発ずつしか入らない。『準備完了』の合図でその弾を装填するのだ。1つのカートリッジには空砲が入っている。罪悪感を感じる兵士がいても、空砲を撃ったのは自分のライフルだと納得してくれ。君たちはこの任務のために志願したことを忘れないでくれ」。

彼が「準備完了」の命令を出すと、海兵隊員たちはライフルを構え、1発ずつの弾を装填した。

「狙え」とクランドール少将が言った。海兵隊員はポデスタの胸に狙いを定めた。

ポデスタは神に呼びかけた。「撃て！」クランドール少将が命じた。

一斉に6人の海兵隊員が発砲すると、ポデスタの穴の開いた体が前に倒れ、地面に崩れ落ちたのである。

その場にいた医師が脈を取り、血のついたポデスタの胸に聴診器を当てて、死亡を宣言した。

父ブッシュ ブッシュ クリントン バイデン ヒラリー・クリントン オバマ と アメリカの政界とメディアの闇は、私たちの想像を絶する狂気に満ちたものでした。

トランプ大統領の登場で 闇が次第にあぶりだされてきました。

そして、トランプ大統領の復帰とデクラスで 一気に闇が表面化します。

2021年9月29日 松本安生